

第4学年 体育科の実践

1 単元名 「ソフトバレーボール」 (全8時間 本時6時間目)

2 単元目標

- ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができるようにする。
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりすることができるようにする。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

〈聴く・話すについて〉

ペアやグループでの交流を通して友だちの考えに耳を傾け、全体の共有の場においても自然に反応する姿も見られてきた。しかし、話し合いの際に自分の意見を伝えるだけで終わってしまったり、結論や答えを求めることが多いために、相手の考え方を意識して最後まで話を聞いたりするなど深く理解しようと粘り強く聞くことが難しい様子もある。話すことについては、一人一人が自分の考えをもつように積極的に取り組む様子も見られるようになってきたが、授業中の発表の場面では、自分の考えに自信がもてず発言できなかつたり声が小さくなったり、自分の考えをうまく言葉に表せなかつたりするため、発言する児童に偏りが出やすい。そこで、夏休み明け後にクラスで「授業中に挙手して発言しにくい人が多いのはなぜか」ということを考え、話す側だけではなく聴く側の態度や反応が大切であることを共有し、場面に合わせて聴くことと話すことを切り替えていくよう日常的に指導している。授業では前時の振り返りなど簡単な問いからはじめたり、課題に対し自分の考えを整理して少人数から話し合うようにしたりすることで、自分の考えを伝えることに対して自信をもてるように活動を設定している。また、全体共有の際には「なぜそのように考えたのか」を問い返したり、「〇〇さんの意見をもう少しわかりやすく伝えられる人」のように、相手の意見に耳を傾けながら協力して課題解決に取り組めるように関わっている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

体育科ではチームで取り組むものとして「ティーボール」と「サッカー」に取り組んできた。どちらもクラスを4チームに分けて2コートで学習を行った。試合前のチームの時間でどうすればうまく攻められるか、またしっかり守れるかという視点で作戦を立ててから試合に取り組み、試合後にはうまくいったことや改善していきたい点について話し合い、仲間と協力して進める学習を経験している。また、随時自分たちが感じる難しさや課題についてクラスで相談し、適宜ルールを変更して進めていく活動も経験している。しかし、一部の児童だけで話し合いが進み、チームで取り組む意識が低く作戦を意識した動きができない様子も見られる。そこで、全員が話し合いに参加し、自分事として課題を解決できるようにしていきたい。そこで、「できることからやってみるという前向きな気持ち」と「みんなで考えを出し合える雰囲気づくり」を大切に進めていき

たい。その上で、仲間との話し合いを通して、ひびき合える姿を目指したい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領の「第3学年及び第4学年の内容」（Eゲーム）の内容を受け、設定したものである。中学年のゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成され、主として、規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友だちと力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。ネット型ゲームでは、「基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをする。」と、学習指導要領に示されている。ボールを持たないときも、ラリーを続け相手に返すための動きが必要となり、全員がプレイに関わりやすい。そこで、ゲームのルールを工夫したり、ゲームに必要な技能を身に付けられるようにしたりすることも重要となる。

また、ネット型ソフトバレーボールは、バレーボールを基にしたゲームで、相手から自分たちの動きを妨げられず、一人ひとりがもっている力を発揮して攻めと守りを交互に繰り返すことができる教材である。チームの仲間と協力してボールをつなぎ、相手のコートに返すことができる。チームで攻め方や守り方を考えて学習を進められることに本単元のよさがある。

〈指導について〉

本単元のネット型ゲームの特徴は、ネットを挟んで敵と味方に分かれ、相手コートにボールを返して得点を重ねていくところにある。しかし、ソフトバレーボールの学習経験がある児童はならず、ボールに触れる時間を多く確保し、ソフトバレーボールに慣れ親しんでいくところから段階的に進めていく。また、ソフトバレーボールの繋げて返すという楽しさを実感できるようルールの追加や変更などは随時話し合いながら決定していく。

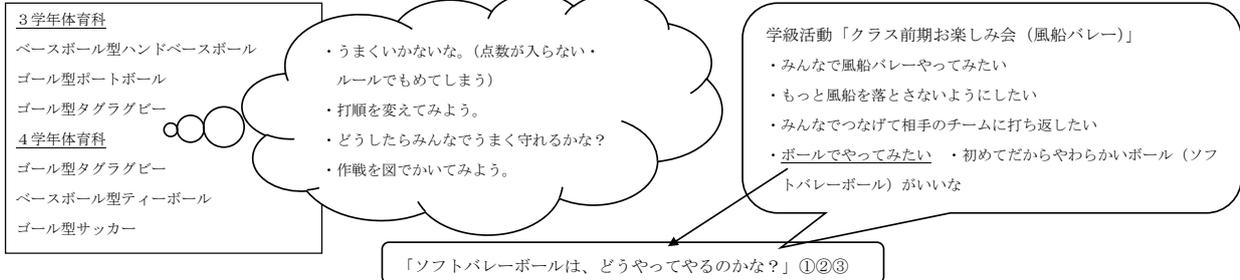
単元の流れとして、初めは個人や二人一組で限定しながら取り組むことで、ソフトバレーボールの基礎的な動きに慣れ親しんでいき、次第にチームでのやり取りを加えていくことで、まずはラリーが続いていることに対する楽しさや達成感を感じられるようにする。そのために、まずはネットを張らないでコーンにスズランテープを組み合わせた区切りを使う。ラリーを続けていく活動の中で「実際に試合を行ってみたい」「ラリーを続けるためには、どうしたらいいか」「どうすれば相手のコートに落とすことができるのか」という意欲や次の問いにつなげていく。そこで、「チームの課題は何か？」など、自分たちのチームの特徴にも気づき、「作戦を立てたい」「ルールを工夫したい」という思いが生まれると予想される。

そこで、本時で児童が解決したい問題は、「ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな？」であり、「仲間との話し合いを通して、チームの課題を解決したり、よさを生かしたりする姿」をひびき合いの姿とし、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。

5 単元構想

単元目標

- ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができる。
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
- ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりしている。



- ソフトバレーに慣れよう
- アンダーハンドパスとオーバーハンドパスで落とさないように上げ続ける。(1人、2人)
- ・手首の部分に当て続けるのが難しい。 ・ボールが飛んでいっちゃって続けられない。 ・弱い力で低くやっていると続けやすい。
- ・高くした方が何人かでやっても落ちてくる場所をねらいやすい。 ・高さがありすぎても低すぎても難しい。 ・風船ならもっと楽しんだけどな
- ・腕の向きに気を付けるとやりやすい。 ・手の形に気を付けるといいよ。 ・もっと多い人数でラリーを続けたい。 ・もっと長くラリーを続けたい。

「ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな？」④⑤⑥ (本時)
ねらい1 自分のチームを知り、易しいルールや場を考えて、ラリーゲームを楽しもう

- グループでいろいろな高さや方向からのボールを片手、両手ではじめて繋ぐ(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アンダーハンドサーブ)
- グループでラリーを行う。(円陣ラリー、コート内で実際のものより低いネットでのラリー)
- ・ボールがとんでいても誰かが拾って繋いでいける。 ・誰がとればいいのかかわからず勝手に落ちてしまう。 ・キャッチができなくて難しい。
- ・近くだと他の人とぶつかってしまう。 ・急にボールが自分にとんできてレシーブしたくてもできない。 ・ルールを変えた方がいいと思う。
- ・誰にパスするか声を掛け合うとやりやすいよ。 ・作戦で役割を考えたらいいと思う。 ・ラリーを続けるコツは何かないかな。
- ・他のチームとも動きを比べてみたい。 ・実際のネットを使って打ち合いをしたい。 ・実際に試合をして、落とす動きもやってみよう。

○ルールを守り、場や用具の安全に気を付けてネット型ゲームに取り組み、勝敗を受け入れたり、仲間と協力したりすることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度) 観察・発言

帰りの会
「いいところ見つけ」
○○さんが「ドンマイ」など優しい言葉をかけてくれた。

【ひびき合う児童の姿】「仲間との話し合いを通して、チームの課題を解決したり、よさを生かしたりする姿」

○ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考・判断・表現) 学習カード・発言

「どうすれば相手のコートにボールを落とせるかな」⑦⑧
ねらい2 自分たちのチームに合った攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しもう

道徳科
「ONE TEAM-ラグビー日本代表」(友情、信頼)・認め合ったり、話し合ったりすることがチームを一つにするんだ。

- ・実際のネットだとラリーを続けるのが難しい。 ・ネットを越えさせるために高く上げるようにした。
- ・アタックを使ってあげるだけでなく落とすようにすると点が入りやすかった。
- ・相手のポジションを考えたらいいと思った。 ・○○さんのアドバイスがすごくわかりやすかった。
- ・チームワークを高めてがんばろう。 ・チームの強みを生かそう。
- ・みんなで協力して守りを固めるとラリーが続いて楽しい。 ・チームに合わせた練習を選んでやりたい。
- ・自分たちのチームはトスがうまくできるから、3回目をアタックして返すことを練習したよ。
- ポジションにおける役割分担を工夫するどんな役割を決めておけばいいかな？(守り方や攻め方の工夫)
- ・前2人後ろ2人を変えてトスをあげる人決める？ ・触る順番を工夫する？
- ・ローテーションは？ ・キャッチのタイミングを工夫する？

○ネット型ゲームの行い方を理解するとともに、チームによる攻撃と守備による易しいゲームができるようにする。(知識・技能) 学習カード・観察

6 本時について

本時目標 チームでの話し合いを通して、自分たちに合った工夫について考え、ボール操作の技能を高めている。

学習活動 ・予想される児童の反応	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>1. 道具の準備、準備運動を行う。(5分)</p> <p>2. 各チームでめあてを確認し、練習を行う。(5分) (円陣ラリー、ペアでのラリー、サーブとレシーブなど)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ラリーを続けるためには、どうしたらいいかな ねらい 1 自分のチームを知り、楽しいルールや場を考えて、ラリーゲームを楽しもう</p> </div> <p>3. ラリーゲーム（前半戦）を行う。(5分)</p> <p>4. チームで前半戦を振り返り、アドバイスや作戦を考える。(8分) ・場所と役割を分担するといいかも ・声かけをしてラリーを続けるようにしよう ・打ちたい方向に腕や体を向けるといいボールが打てそう</p> <p>5. ラリーゲーム（後半戦）を行う。(5分)</p> <p>6. 今日の振り返りをする（チーム一人一全体 10分） ・キャッチの回数を減らしてやってみよう ・もっと仕切りの高さを高くしたい ・相手のコートに戻すときに落とすようにしてみよう</p> <p>7. 片付けを行う。(5分)</p>	<p>・怪我予防のために手首足首は丁寧に扱う。</p> <p>・前回気づいたポイントや変更したルールがあれば確認してから進める。</p> <p>・コートごとに練習させて周囲との距離を十分にとり、怪我予防に努める。</p> <p>・練習メニューは選択できるように、カードで提示しておく。</p> <p>◆チームに合った練習方法や作戦を考えている。【思考・判断・表現】</p> <p>・チームでの話し合いがうまく進まないところには、自分たちのめあてや課題が何かを考えさせながら支援する。</p> <p>◆ゲームの中で、ボールの動きに合わせて体を動かすことができる。 【知識・技能】</p> <p>・振り返る際にめあてや作戦がどうだったかを考えさせるよう促す。</p> <p>・ルールや変更したいことについては全体で話し合わせてから決める。</p>

7 実践を終えて

①単元について

本単元では、ソフトバレーボールという種目に慣れていくために、ルールや基本的な動きから始まり、センターラインを越えたチームでのやり取りがどうすればうまくいくかについて話し合う活動を行った。初めてソフトバレーボールを経験する児童がほとんどだったので、見本の映像を見て、少人数で教え合いながら進めていくことで、連携している実感や自身ができるようになったことに対する達成感を感じられていたと考える。

ワークシートでは、毎時間の取り組みについて、一人一人が意識しながらめあてを立てたり、積極的に取り組んだりする様子が見られた。

②成果と課題について

成果

子どもたちが自身の技術のみではなく、チームでの連携や相手チームとのやり取りにも注目しながら、ラリーの回数を増やしていくにはどうすればよいかを、ポジションやボールの高さなど多様な視点から考えようとしている姿勢がより見られるようになった。「このあたりでボールが拾えないから配置を変えよう」「チームでつなぐことがまだ苦手だからパス練習をもっとやろう」など、初めてのスポーツに対してよく自チームの課題をとらえ、向上させていこうとしていた。

課題

ラリーゲームという相手チームとのやり取りを経てラリーの回数を増やしていくという活動と、単元全体や本時のねらいに十分な繋がりが見られなかったと考える。単元全体の中で本時がどのような位置づけにあるのか、そのために必要な活動や教材、学習環境はどのようなものであったかをより深く考え、改良していかなければならない。活動については、ラリーゲームの性質を考え、コートごとで何回まで続いたか、という競争からはじめ、チームごとだけではなく相手チームとも話し合いをすることで、ラリー回数を伸ばしていくというねらいに迫りやすくしていきたい。学習環境については、本時はネットを設置せず、カラーコーンを配置するのみとすることで、取り組みやすさと安全性を優先した。しかし、結果としてソフトバレーボールとしてのボールを落とさないという性質や高さを意識したやり取りという点で不十分であった。高さの低いネットを張るなど、初めて取り組む種目でも長期的な視点から本来のスポーツの性質や面白さを感じられるようなものを用いる重要性を実感した。さらにこれらを支えるための教材として、カードの内容や振り返りの項目も十分に考慮したうえで作成すべきだと考える。

